



かすみなしんとう  
和源神道

# 供養祭

## 神示に曰く

日々人のために尽くすことのできぬ者の中にも善良なものは存在する。

そのような者達に

**功德を積む機会**を与えようと思う。

吾が思いを慮り、広く救いの祈りを共にせよ。

重々しく耳で聴くとは少し違う響きを持った詞。



# はじめに

この電子書籍には動画が含まれており、突然音などが発される場合がありますので音量などに御注意くださりませ。

この書籍は、日本の伝統的な文化の継承努力をしている和源神道発行物です。文面に古風な言い回しや現代的でない部分、または一般的には使用しない語が多用しています。祭祀的雰囲気大切に表現するためのものであり、特定の個人をさしての文面ではありません。御理解いただきお読みくださりますようお願いいたします。

和源神道

## 略目次

- 「神示あり」
- 「功徳を積む」
- 「供養の心」
- 「秘伝と神々の降臨」
- 「供養祭の和源秘伝と祈り」
- 「供養祭当日までに」
- 「編集後記」





## 用語解説

御神示とは、神様の指針や予言に関することを示される場合があり、それを指す用語。心根の悪い人や日常の行いが一般人と同じ生活習慣の方が、声を聞いた正しい神は清浄な行いを正し、悪いものを感応することや、邪霊の言葉が多い。正しい神は清浄な行いを正し、悪いものを感応することや、邪霊の言葉が多い。



### 「神示あり」

ある日、御神示があった。

その声は

「日々人のために尽くすことのできぬ者の中にも、善良なものも存在する。そのような者達に功徳を積み、機会を与えようと思う。吾が思いを慮り、広く救いの祈りを共にせよ。」

重々しく耳で聴くとは少し違う響きを持った詞。発端　そうして　供養祭となった。





## 用語解説



「**功德を積む**」  
他者のために祈ること、他者への善き行いは功德を積むこととなる。

他者へ害を与えることを業といい過ちともいう。

人の感謝の心は温かく貴方の運氣は上昇する。  
他者の恨みは冷たくあつて貴方の運氣は落ち行く。

神々の御心とともにある行いは、人に善良な行動に合せて神々の御心により功德は倍加する。  
単なる倍ではない神々よりの功德。

**功德とは**  
神様のお考えに添う行い、人の為になること等を行うと加算される靈的な陽気。  
**神様**や人の喜びや幸せな心は暖かく陽気であり（運など）上昇する。  
**業（過）とは**  
神様のお心に背き、人や社会の損失になる行いをする事、人を不幸にすること。  
悪行や恨みは冷たく陰気であり（運など）下降する。





## 「供養の心」

和源の供養祭は貴方の「先祖霊」だけ供養するのではなく、先祖霊と共に「有縁霊」そして「無縁霊」をもあわせて祀る。貴方から見ても縁が近く多きい霊へ祈りを届けることは懸命に祈れば届くこともあるが、縁があつても祈りの届く関係を超えれば祈りの心を縁薄い霊たちへ届けることはなかなか難しい。無縁霊や浮かばれぬ方・水子等を供養することで功德を積むことができると伝わり、霊の昇つて行くその瞬間を感じる方も存在する。

## 用語解説

因縁とは 因縁という言葉自体は善悪を論じない。縁の因であり、縁の関係の種を表す語。

先祖霊とは 血縁関係にある方の霊を指す。

有縁霊とは 貴方を守護してくれていたり、感覚が鋭い人は啓示などを受け取れる場合がある。

無縁霊とは 血縁関係はないが何らかの縁があつた人の霊。

これには何も問題のない場合もあれば怨恨の関係や反対に恩顧の関係もある。

血縁も先祖とも接触の無かつた人霊。普通波長が合わないが特殊な場合がある。





## 「秘伝と神々の降臨」

和源秘伝の築壇をし供養幣ならびに供養物を供え幽世の主宰神に降臨を願ひ、あわせて死籍司神・黄泉平坂山神(泰山府君・ある日本の神様が権現されておられる)をとくに春分・秋分という日本古来からの霊祭日に、三柱神を篤く祭り、幽世の眷属神に降臨願ひ迷える者を幽世に導く祈り。

### 権現とは

神様が救済のため状況に応じその姿を変えて動かされる仮初の姿。権現との対の用語として正体がある。

### 幽世(かくりよ)とは

物質世界と共にある意識・気など・霊などの波動次元のこと。

正確には物質世界のことを現世(うつしよ)という。

うつしよの意味は「映し出された世界」かくりよは「隠された世界」

### 供養祭における和源秘伝とは

持神官の修める鍛錬だけでなく、御幣や齋場荘嚴法をはじめとして各種加方術の秘術を組み合わせ、普通のお祈りでは届かない深さまで祈願成就させる門外不出の方法。

### 春分・秋分の日とは

単に春秋の中日ということではなく、古代より先祖を祭る特別な日。

井原市	春分(三月二十一日ごろ)	日の出	六時十分	日の入り	十八時十九分
井原市	秋分(九月二十二日ごろ)	日の出	五時五十五分	日の入り	十八時三分



## 用語解説



# 「供養祭の和源秘伝と祈り」

香を醸し符を供え御縁の霊に神の功徳を説法し、和源の秘伝によつて清められ神様の御光を受けたお供え物を諸霊に施し召し上がつていただき、霊に神の御厳を宿し心に光を燈されますよう。

秘伝とは

秘められた詞

時をわたり伝えられた「ことだま」

神々との約束をあらわす「印」 心をあらわす居住まいたる神前礼法

心根の響きは「おとだま」

神界および霊界法則をあらわした斎場のかたち

これらの要素を厳しい修行により合一させ神々の光をこの世への扉となれり。

神官は沢山の霊のために幽世の法を犯したことを幽世の主宰神に罪一等の許されんこと願ひ奉り、霊の来世の幸あらんことを祈る。

## 修行とは

行を修めること。主に鍛錬の意味。本来はもつと深い意味がある。

## ことだまとは

日本語には二万年の時を磨かれた力があり、本質を知りそれを用いるときにその力を発揮する。日本語の本質をさす用語。



おとだまとは  
神々の御心に適う根正しく奏でられた糸竹（琴や笛の意味）や鼓などは邪悪なものを退け清浄な場をもたらす力がある。それを指した用語。

印とは  
神々や特定の神界との結縁や感応を引き出す、手や指の組み合わせによってなされる形。印は神々との約束の上で成立しており、印を結ぶことによつてその力を用いることができる。印の力を發揮しないのは結び方の順番がありそれを正しく行わないのが一番大きい原因。他にも用い方の要点は幾つかある。

## 「供養祭当日までに」

供養祈願紙に自分および家族または共に供養を祈る方のお名前を記入。名前など必要事項を記入し神棚があれば神棚の脇、無ければ筆筭などの上で清潔感のある場所などに供養祈願紙を置いてお水などをお供えお祭りしてくださいませ。

日数は三日以上が望ましい。

供養とは自分も可能な限りの祈りと祀る行いをするのが大事。

懸命な祈りのこもつた供養祈願紙は、修行を重ねた神官ならば、その心を読むことができ清々しさを感じる。その

年に二回の春分と秋分という好機を捉え至誠を籠め祈りなした貴方の祈願紙、それを和源神官はさらに祈り禱るところ和源の秘伝は祈りの限界を超えて多くの霊たちへ神々の光が届く。



和源神道 年中行事  
「供養祭」の開催日  
（春）三月の春分の日  
（秋）九月の秋分の日  
開催時間は和源神道公式サイトにて確認していただくか、メールまたはお電話にてお問い合わせ下さいませ。

御参加される場合前日までに御一報いただけますと有難く存じます。  
祭礼日の前日当日は祭礼準備に忙しくしておりますのでお問い合わせなどの対応に不十分な場合が予想されます。  
また平日であっても祭礼やその他の行事などで電話に出れない場合がございます。御了承くださりませ。



「編集後記」  
この書籍は日本文化を大切にされる方のため、和源神道にご縁の方のために製作させています。

「供養祭」編集委員会 和源神道広部寮内

岡山県井原市下稲木町字金神2434-1

○八六六・六三二・四八一

和源神道公式PCサイト <http://www.ibara.ne.jp/~konzin>

電子メール [kazumina@ibara.ne.jp](mailto:kazumina@ibara.ne.jp)

和源神道公式サイトQRコード



この書籍は日本文化を大切に  
する方

和源神道に  
ご縁の方のために製作  
しています

供養廻りの風景より

秋分の供養祭

和源神道 (C) 2014

静かなる今宵

光輝に満ちて

神聖の輝きは

命のしずくは

神性を持つ者

慈眼にて憂う

神々の息吹は

神性を持つ者

抱擁の包みし

静かなる時に

輝きに満ちて

現世の無情を

